

平成 28 年度《2016 年度》6 月議会 一般質問 (一問一答)

連合市民クラブ 津田加代子

おはようございます。連合市民クラブの津田加代子です。今回は大きな質問事項として 2 点、質問させていただきます。

1、小学校統廃合の今後について

- ・校区や学校の統廃合問題に関しては「政治生命をかけていどむ課題だ。」といわれ、いどむときには、決意と覚悟、そして丁寧に進めていくことが大事といわれてきているほど大きな課題であると。
- ・「過疎の地で廃校にすると、より過疎が進むよ。学校は文化のともし火だ。」などと、**立ち止まることを示唆している他市町の事例**をいやというほど聞かされてきました。

しかしこのご時勢、少子化の問題は避けては通れません。「子どもは宝だ」といつつも、子どもにかける施策、財政は、決して多いとはいえませんし、子どもの数が増えたとき、学校施設・設備をつくってきたのだから、少なくなったら少なくしていくのは当然だという意見も出てきます。

そんな中、市教育委員会として、審議会に諮問され、答申を得てきたことを持って、「勇気を持つての選択・提案」をされたのだと感じてきました。

そして 5 月の第 3 回説明会で、「今、立ち止まる」ことを明言され、「この 6 月 28 日に、再び方向性を示していく」と伺っています。

市教育委員会として「示される方向性」をうかがう前に、この一般質問の機会を活用させていただき、そこでの考えられる課題を示し、それも盛りこみながらの提案としていただきたい。その思いをこめて質問いたします。あくまでも、育ちゆく『子どもにとっての最善の利益』につながっていくような取り組みになってほしいという願いをもって質問します。

本論に入りますが、

グリーンハイツ地域・清和台地域、この 2 つの地域の 4 小学校を統合して、それぞれの地域で 1 小学校にしていこうという教育委員会の方向性について、今日まで、説明がなされてきました。

平成 27 年（2015 年）8 月、議員協議会で、初めて公に説明された後、保護者・地域・学校教職員等に対し、市教委の言われる、計 20 回以上の説明会が行われたのだと理解しています。

直接地域の方々のご意見を伺う中で、整理しておきたい視点をまとめ質します。

(1) なぜ、今、統廃合を提案していくのかについて

整理する意味で、具体的に述べて下さい。

(2) 平成 27 年 9 月議会、津田は一般質問をしました。その時のご答弁の内容の達成状況について

当時、津田が行った一般質問です。

『平成 30 年度、31 年度を **目途にして**、川西市立小学校 4 校で統廃合がなされていくことになってきました。地域住民・学校関係者などこれまで校区の学校環境を創り出してきた全ての方々に、その**経過・主旨・その後の方向性**を教育委員会としてしっかり示し、説明をし、理解を求めた上で、動き出してほしいと願います。』として、『**統廃合の件も教育の視点から、子どもの側からの意義を的確に伝えていってほしい**』ことと『**2 校同士で、これからに向けて力合わせを求めていきたいと考えます。・・・2.3 年しかありません。**』として質問をしています

その答弁は、『**統合前から、教職員間の共通理解を図り、統一した教育方針に基づいて、教育活動や教育指導が行われるようにすることが必要で、校長を中心に、教職員相互の協働を進めていくことを検討**』加えて、『**双方の学校の教育活動の特色を教職員や子どもたち自身が実感できるように、統合対象校で合同で行事などを通した交流活動を実施していきたい。交流によって児童の不安や動揺を軽減し望ましい人間関係作りに向けて取り組みを進めていくことを検討する。**』としていた。

そこで、

- ① 統廃合の意図していることについて、住民への説明を十分すること。
- ② 教職員への理解をえ、共に作り上げていく「教育」について説明する。
- ③ 小中連携の良さを、この地で発揮していくために、小・中学校教職員間の交流を図り、統合に向けての意識の確認・統一。
- ④ 教職員勤務の適正化に係って

(3) 市教委が説明会で用いた言葉(用語)について

多様な専門用語がつかわれてきました。とりわけ、小中一貫校・小中

一貫型教育・小中連携・小中連携校・単学級等々、必ずしも共通理解をして使われているとは思えませんでした。その言葉をしっかり説明して下さい。

(4) 総合教育会議の開催について

統廃合について、審議会の答申を受けて、教育委員会の方向性は示されてきましたが、総合教育会議のこの件での開催はどうなっていましたか。

(5) 川西の教育のこれからについて

統廃合対象校のみの「これからの教育課題」ではないと考えます。かつて総合選抜制度の高校入試に係って、川西市に大きな教育の柱をもたらしてきていたことを振り返ります。地域の学校に進学していくことで、正真正銘、仲間意識を育て、『いざ 友 ゆかん』と目標に掲げて、仲間とともに、子どもの育ちを生み出してきた兵庫川西の地域社会がありました。それを支えていく為に、小学校に中学校から教員が出向いて、PTA に説明をする場であったり、土曜日の公民館でのPTA との「教育を語る会」などがありました。

今、少子化に伴って、学校存続を問う形が投げかけられています。かつてそうしてきたように、地域での会合を積み上げながら、理解を得、またこれからの教育論を、共にしていく「いいきっかけ」となっていると判断してきました。ところが説明会で、「教育の議論」が不十分で、「単学級に、いつなるのか?」「そうしたときに、統廃合をしていくぞ!」というやり方では、箱だけの議論にしかなりえていません。

何を根幹にして、これからの公教育をしていこうとしているのか、柱は何と考えているのか。そこに係る**教育の理念について**お聞かせいただきたい。

(6) 地域の方々、保護者の方々と共に、これからの学校についてのお互いの語りを継続していくことについて

(7) 統廃合の時期について

- ・ 2つの当該地域を、同時に進めていく策について
- ・ グリーンハイツを先行実施しようとしている目的について

2、留守家庭児童育成クラブの待機児童解消のとりくみについて

この4月、春休み中に、長期休業中の各家庭の不安を少しでも和らげたいと考えて、退職教職員が中心となって、留守家庭児童育成クラブの待機児童となった家庭に関してのみ対象として、取り組んできた中から、課題を感じた点について、一般質問をさせていただきます。

《現在に至る 提供して頂きました資料》

留守家庭児童育成クラブ登録児童数や待機児童数等

学年	平成 28 年 4 月		平成 28 年 5 月		平成 28 年 6 月	
	登録数	待機者数	登録数	待機者数	登録数	待機者数
1 年	358	13	362	14	359	12
2 年	317	6	316	4	316	4
3 年	241	20	212	18	210	17
4 年	74	26	73	26	72	22
5 年	29	11	28	11	28	10
6 年	1	0	2	0	2	0
合計	993	76	993	73	987	65
	定員	上限	定員	上限	定員	上限
	904	1082	904	1082	904	1082

*待機者の出ている学校は、

久代・加茂・川西・桜が丘・明峰・多田・多田東・清和台南・川西養護・東谷である。(川西養護の場合は違った視点で深刻だ。)

6月での待機児童は、市内全体で、1年生で12人、2年で4人、3年で17人、4年で22人、5年で10人 計65人となっています。4月では、76人、5月では73人でした。

そこで質問に入りますが、

- (1) 入所できる最優先とされている1年生で、待機者が出ている理由について
- (2) 2か月間で待機者が減っていった理由について
- (3) 平成27年度から順次4・5・6年生と増やして募集している市としての考えについて
当然4・5年生の希望者が出ることで、全児童数は増えていくことは当然予想される、なのに教室数がふやされていない。計画性のなさを感じます。
- (4) 平成27年6月議会での津田一般質問の課題解決について

- ① 指導員がそろわない考えられる理由について
- ② 高学年児童を入れていくにあたっての施設整備について(部屋・トイレ)
- ③ 転宅で、川西市に来る児童への対応について
- ④ 川西での取り組みとできるか否かの他市の事例の検討結果について

(5) 市としてオール川西で考えていくことについて

児童館の存在(公民館の取り組み)・地域コミュニティとの連動等働きかけ等々、言葉だけでなくどのようにとらえられているのか?

(6) 待機児童保護者へのアプローチの仕方について

各家庭では新学期を迎える準備で、放課後をどのようにして過ごしていくのかを考えられ、当然のこととして、学校敷地内の留守家庭児童育成クラブで、安心して放課後の居場所を求めていこうと考えられています。しかしここ何年か、希望する全員が入れるとは限らないくらい待機者が出てきています。そのあたりの不安感、又出される決定の結果は、ぎりぎりになってから。入学式を前にして、くら〜い気持ちになっていかれている現状であります。留守家庭児童育成クラブ入所希望の保護者には、

- ・現状をしっかりと示しているのか?
- ・入所できない場合には、どういった放課後の子どもの過ごし方があるのか、照会できているか?
- ・具体的にどうしてほしいのか。個々人に確認をしてこられたのか? など、これまでの取り組み経過について、今後、課題として受け止められていることはありますか?

(7) 夏休みの対応について

平成28年度予算審査委員会で、夏休みなど長期休業中のみ入所を希望される方に対しての態勢を構築できればという回答が出ておりました。そのことをふまえて、この夏休みの対応についての考えをお聞かせいただきたい。

(8) 長期的展望について、今現在の考え方について